

宮川堤（土木遺産）の改修工事

中部地方整備局 三重河川国道事務所 土井万莉子

はじめに

宮川流域は夏期を中心に豪雨をもたらす特性があるため、沿線住民は水害との闘いの歴史を積み重ねてきました。また、宮川桜堤は江戸時代から桜の名所として有名であり、三重県の名勝に指定されています。さらには、突出し堤、境楠大明神や大日権現社、伊勢神宮に関連した渡し場跡（桜の渡し、柳の渡し）や貯水池跡があるなど、歴史・文化的資源が数多くあります。



改修前の宮川堤防と桜（4月）の状況



宮川桜堤の突出し堤 ～洪水の流れを弱め本堤を守る～

伊勢神宮にまつわる歴史と文化を感じさせる重要な景観要素となっている。



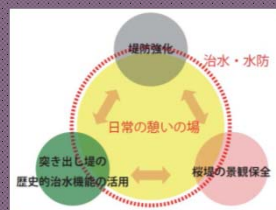
基本方針

★3つのバランスを重視した整備。

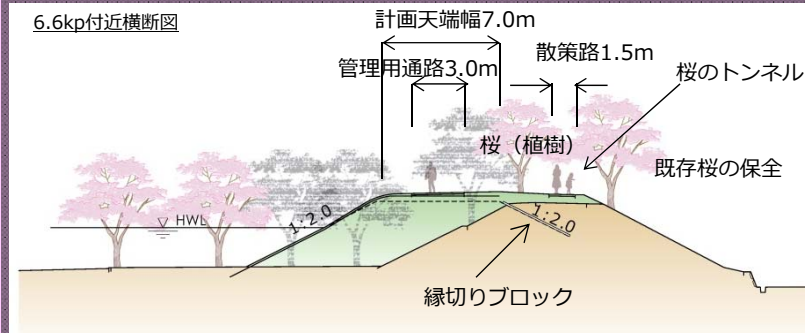
- ①堤防強化（堤防拡幅）
- ②歴史的土木遺産（突出し堤）の保全活用
- ③桜堤の景観保全

★歴史と文化が織りなす新しい憩いの場を提供。

★災害時の備えや防災意識を高めていくことに寄与。



6.6kp付近横断面図



課題

○宮川桜堤は、堤防断面が不足していることから、近年も洪水により漏水が発生。



漏水の発生（H16年9月洪水）



ガマの発生（H23年9月洪水）

○多くの桜が老齢期を迎えているため、枯死や倒伏により、堤防の弱体化を招く恐れ。



テング巣病に感染して縮れた枝



寿命を迎え枯死した桜

改修計画の策定

○学識経験者及び地元関係者からなる「宮川右岸堤防改修景観検討委員会」を設立。景観や歴史等、様々な観点から意見・助言を得て、事業内容を検討。

＜整備方針＞

- ・前腹付盛土を本堤とし、現堤は側帯に位置づける。
- ・既存桜のうち、現堤側は存置。
- ・川表側の既存桜は堤防拡幅時に伐採し、新規植栽する。
- ・次回の式年遷宮を迎える頃には、見ごたえのある「平成の桜堤」を目指す。



宮川右岸堤防改修景観検討委員会の開催状況



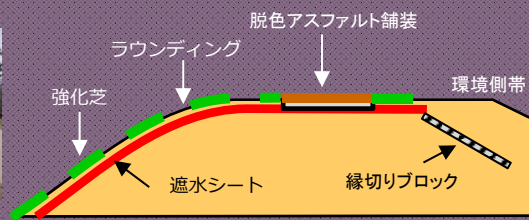
環境配慮

○以下のような堤防の遮水と護岸機能を備えた工法により、堤防の安全性を確保しつつ堤防の緑化を図り、良好な景観を創出。

- ・脱色アスファルト舗装・・・自然景観になじむように、土系に近いものを使用
- ・縁切りブロック・・・堤防定規断面への桜の根の進入防止
- ・ラウンディング・・・堤防の肩を緩やかにして、やわらかい景観を創出
- ・遮水シート・・・浸透対策
- ・強化芝・・・堤防の安全性確保と堤防緑化

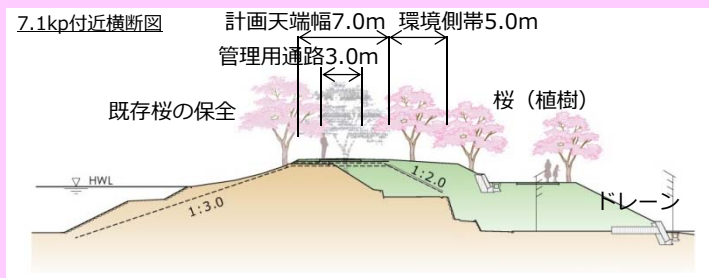
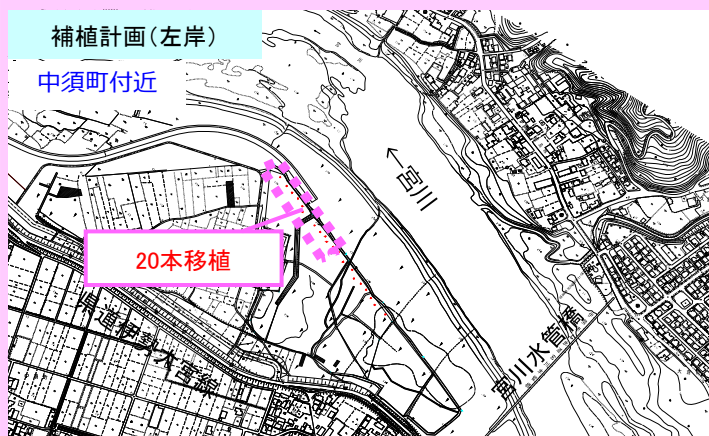
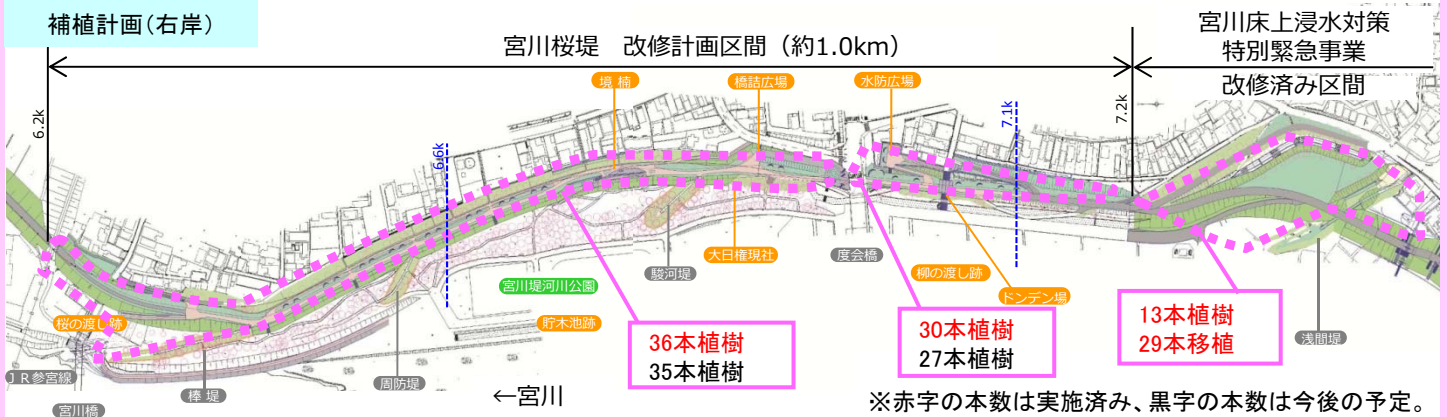


ラウンディングの様子



桜の補植

- 宮川堤の堤防整備に伴い、742本のうち224本の桜の撤去が必要となり、49本を移植するとともに、老年化等による枯死した桜の更新のため、新たに79本を植樹し、現在は653本。
- 地元住民からの要望があったため、樹木医の診断に基づき、移植可能な桜を近隣に移植。
- 桜は、将来708本になる予定。

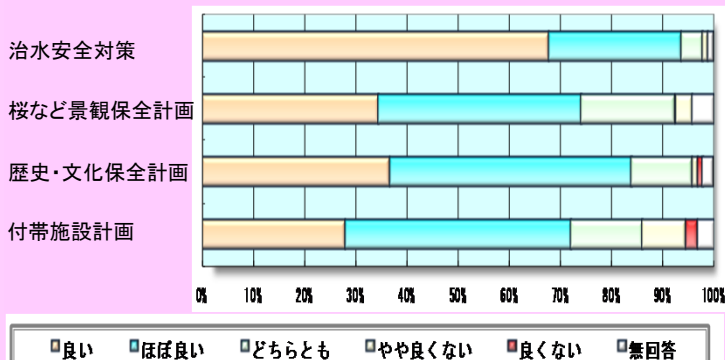


市民の意見

- 宮川桜堤の改修計画の策定にあたり、地元や関係者からの意見や要望を反映して立案した改修計画に多くの理解。

宮川堤改修計画に対するアンケート結果

(H26年1月・2月 住民説明会・市役所等配置・ホームページ上でのアンケート回答者数計93人)



「良い」「ほぼ良い」の合計は、いずれも7割以上となり、改修計画には概ね理解が得られた。

宮川堤周辺の桜の本数(整備前～将来)

全体計画		H28年度末までの実施状況
各桜の本数	詳細	本数
① 整備前の桜 742本		
② 撤去する桜 224本	伐採 175本 移植 49本	伐採168本 移植 49本
③ 保全する桜 518本	①ー②	525本(将来7本減)
④ 補植する桜 190本	移植 49本 植樹 141本	移植 49本 植樹 79本
⑤ 将来の桜 708本	③+④	653本

宮川桜堤植樹式

- 伊勢市と地元中島学区まちづくり協議会の共催により、地域住民が桜堤を守っていく決意として植樹式を開催。
- 協議会員や中島小学校児童、中島幼稚園児ら150人が参加。



植樹式の様子 (H27年2月15日)

土木遺産認定

- 「宮川堤」は、歴史的土木施設としての高い価値を認められ、「平成28年度土木学会選奨土木遺産」に認定。

認定理由: 近世に伊勢の地を守るため築かれた宮川下流右岸の堤防で、本堤と刎出しと堤外植樹等で構成された現代にも治水上機能する土木遺産である。(土木学会選奨土木遺産HPより)



現在の宮川堤防と桜(4月)の状況



認定書